

50Gy/25 分割の温熱化学放射線療法が奏功した IIIA 期肺扁平上皮癌の一例

産業医科大学 放射線科学 上野碧、大栗隆行、矢原勝哉、戸村恭輔
中原惣太、興梠征典
呼吸器内科学 矢寺和博

要旨：局所進行肺扁平上皮癌に対して温熱化学放射線療法が奏功した一例を報告する。症例は 71 歳、男性であり、4 年前に、多発する縦隔リンパ節転移を伴う肺扁平上皮癌（IIIA 期 T2bN2M0）の診断で化学放射線療法を計画した。原発巣は肺門型で 6cm 大と大きく、通常の 60Gy/30 分割の照射を行うと正常肺の照射パラメーターが高くなるため、50Gy/25 分割の照射とした。治療効果の増感を目的に電磁波温熱療法を総 14 回併用した。食道腔内温度測定は 42°C 以上に到達しており良好な加温が可能であった。化学療法は照射中及び照射後にカルボプラチンとパクリタキセルを使用した。治療終了 5 ヶ月後に Grade 2 の放射線肺臓炎を生じるも自然軽快し、腫瘍縮小効果は CR と良好な制御が得られた状態で 4 年 6 ヶ月が経過している。温熱の治療効果への貢献が推測され、文献的考察を踏まえ提示する。